

【スカイブルー (sky blue)】晴れた空のような明るい青色。

空色の英名。ラテン語で空、天国を意味する caelum (カエラム) を語源にしたセルリアンブルー (cerulean blue) も同じく空色だが、こちらは少し緑がかった青色になっている。イギリスの有志から始まった医療従事者への感謝を表す「Light it Blue」キャンペーンでライトアップに青色が用いられたのは、晴れ渡った空のような日々が戻るのを願ったからではなく、国民保健サービス「NHS」のシンボルカラーが青色だったかららしい。

●目次 / contents

今月のニュース 2

新型コロナウイルス感染症の対応に尽力されている地域の文化・芸術に携わる皆様へ

新型コロナウイルス感染症に係る支援の取り組み(都道府県・政令指定都市)

財団からのお知らせ 7

令和3(2021)年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

令和2(2020)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始

令和3(2021)・4(2022)年度「公立美術館活性化事業」募集

令和3・4年度「市町村立美術館活性化事業」/令和3・4年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(2か年)/令和3年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(単年度)/令和3年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」/令和3年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

今月の情報 10

地域通信/夏のフェスティバル実施状況/オンラインを活用した取り組み

調査研究事業報告 14

2019年度「地域の公立文化施設実態調査」③ 専用ホール

今月のレポート 16

静岡県舞台芸術センター (SPAC)「くものうへ↑せかい演劇祭2020」

新型コロナウイルス感染症の対応に尽力されている 地域の文化・芸術に携わる皆様へ

一般財団法人地域創造理事長 板倉敏和

新型コロナウイルス感染症は、わずかな間に多くの尊い命を奪いました。亡くなられた皆様のご冥福を心からお祈りするとともに、罹患された方も含め、ご家族・関係者の皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。また、この未曾有の状況のなか、地域の文化・芸術拠点として何ができるのかを模索し、対応に尽力されている地方公共団体、公立文化施設の皆様に心から敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大は、未だ予断を許さない状況です。このような情勢を受け、公立文化施設においても主催事業の延期・中止、貸館事業の停止といった事態が生じていますし、文化芸術団体やアーティストも活動の制限を余儀なくされるなど、文化・芸術分野においても大変厳しい状況となっています。

地域創造におきましても、地域にとって必要不可欠な文化・芸術を絶やさぬよう、地域の文化・芸術に携わる皆様の声を受け止めながら、これからの時代にどのような事業を展開すべきかを、新しい発想をもって見出していきたいと決意を新たにしています。

今年度の事業につきましては、各地域、各事業によって様々な課題があろうかと存じますので、地域や公立文化施設の皆様の実情・ご意向を尊重しながら、来年度への延期や事業内容の変更なども視野に入れて、できる限り柔軟に対応してまいります。

一方、実施可能な事業につきましては、様々な創意工夫のもと各地で広がっているオンラインを活用した取り組みや、密を避けるなど制約がある中で生きた文化・芸術を届けるための取り組みなどを参考に、公立文化施設の皆様やアーティスト、コーディネーターと共に工夫を凝らし、先ずは当たり前文化・芸術が身近にあることを取り戻し、そして多様な未来に繋がる支援を積極的に行ってまいりたいと考えております。

また、今後の文化施策の取り組みへの検討に役立てていただくため、各地域の取り組みや支援策等の情報収集・発信にも一層力を入れてまいります。皆様の地域の情報や事業実施に係る課題やアイデアなどをお寄せいただければ幸いです。また、なるべくリアルタイムに正確な情報収集・発信が可能となるように、当財団ホームページにおいて皆様からの投稿によるプラットフォームの整備を検討しています。

最後に、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

2020年6月

※このメッセージは、2020年6月12日に当財団ホームページにて公開したものです。

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●新型コロナウイルス感染症に係る支援の取り組み(都道府県・政令指定都市)

新型コロナウイルス感染症に対し、文化・芸術の分野でも地方公共団体によるさまざまな支援策が実施されています。今回は、都道府県および政令指定都市において令和2年度補正予算(5月30日までの議決分)により講じられた措置をご紹介します。支援策等の立案にあたっておられる地方公共団体等の皆様ならびに地域で文化・芸術活動に取り組む皆様の参考になれば幸いです。

施策内容は、アーティストへの助成や相談支援、指定管理者への収入補填など多岐にわたり、内閣府の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用している事例も多くあります。今後整備される施策もありますため、詳細・追加情報については各地方公共団体による発信情報をご確認ください。

なお、当財団ホームページ等にて、関連情報を引き続きご紹介してまいりたく、各地方公共団体の皆様におかれましては、情報提供にご協力くださいますようお願いいたします。

●支援策一覧(都道府県・政令指定都市)についての問い合わせ
芸術環境部 児島・崎山・吉川
Tel. 03-5573-4183

●支援策一覧

※この支援策一覧は各地方公共団体のホームページに公開されている情報を元に地域創造編集部が作成し、各地方公共団体に掲載許可を得たものです。
※今後の施策検討の参考としてご利用いただけるよう、募集が終了した情報も掲載しています。

団体名	支援策名称	概要	担当部局
北海道	感染拡大防止ガイドライン策定普及モデル事業(ライブ・エンタテインメント業)	音楽や演劇、ステージイベントなどを通じ、地域住民に潤いや活力を与え、地域文化の発展を担っている「ライブ・エンタテインメント業」において、業界団体による感染拡大防止ガイドラインの策定・普及啓発を支援するとともに、ガイドラインに沿った取り組みを実践する事業者には業界団体から助成金を交付する。 [募集期間(補助対象業界団体)]～6月5日 [募集期間(助成金支給対象事業者)]6月下旬以降募集開始予定 http://www.pref.hokkaido.lg.jp/page.jsp?id=1289100	経済部 経済企画局 経済企画課
札幌市	札幌市文化芸術公演配信補助金「さっぽろアートライブ」	市内の文化芸術公演活動を支援するため、文化芸術活動を行う団体および個人が2021年1月31日までに無観客公演の動画配信活動を募集し、選考委員会による審査により助成する。団体200万円、個人50万円を上限に、50件程度へ交付予定。 [募集期間]5月20日～6月10日 http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunka/corona/haishinchozo/gaiyou.html	文化庁 文化振興課
仙台市	多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業	活動の縮小や停止を余儀なくされている地域の文化芸術関係者の活動継続を支援するため、①オンラインイベント等、多様なメディアを活用した文化芸術の創造と発信を行う事業に係る経費の10分の10(申請者が個人の場合上限30万円、団体・民間文化施設の場合上限50万円)、②新たな収益モデル事業の構築等、多様な主体が将来にわたって①に掲げる活動を継続的に進める基盤をつくる事業に係る経費の10分の10(上限100万円)を助成する。 [募集期間]5月8日～5月29日 http://www.city.sendai.jp/bunkashinko/shise/koho/kisha/r2/shienjigyo.html	文化観光局文化スポーツ部 文化振興課 ※窓口は仙台市市民文化事業団 総務課 企画調整係
秋田県	芸術文化関連事業者緊急支援事業	芸術文化イベント公演等の中止・延期を余儀なくされている県内の事業者等に対し、無観客公演等の開催および動画制作・配信をする取り組みを支援する(1件当たり上限300万円)。 [募集期間]6月3日～19日 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/50001	観光文化スポーツ部 文化振興課 調整・文化振興班
茨城県	指定管理施設におけるキャンセル対応関連事業	県有施設におけるイベント等自粛に伴うキャンセル料返還を補填する(2月27日～3月31日分)。 https://www.pref.ibaraki.jp/somu/zaisei/kanri/documents/r02_4hosei01_yosanan_kankeishi_ryou.pdf	生活文化課 文化振興担当
東京都	芸術文化活動支援事業「アートにエールを!東京プロジェクト」	文化の灯を絶やさないための緊急対策第一弾として、新型コロナウイルスの影響で文化芸術活動を自粛せざるを得ないプロのアーティストやスタッフ等を対象に動画作品を募集し、出演料相当として1人当たり10万円を支援する(1作品につき上限100万円)。 ※6月中旬に追加情報あり [個人登録期間]5月15日～31日 [企画募集期間]5月27日～6月12日 https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/katsu_shien/0000001469.html	文化振興部 企画調整課 ※問い合わせ先は「アートにエールを!東京プロジェクト」事務局
横浜市	横浜市内のアーティスト等、文化芸術活動緊急支援事業	発表、制作等の活動の機会を失っているアーティストや企画運営者を含む文化芸術関係者、および営業を自粛している民間施設の活動を支援するため、活動再開に向けた準備制作や民間施設を活用した動画配信などの文化芸術活動を募集し、支援金を支給する。 ・文化芸術活動応援プログラム(上限30万円) [募集期間]5月28日～6月10日 ・映像配信支援プログラム(上限70万円) [募集期間]6月15日～7月3日 https://covid19.yafjp.org/	文化観光局 文化振興課

団体名	支援策名称	概要	担当部局
横浜市	バーチャル版芸術フェスティバル事業	活動を休止しているアーティストの支援として、市内を主な拠点に活動するプロの音楽家、ダンサー等と共に横浜みなとみらいホール等において、世界中どこでもバーチャルに体験できる、最新技術を活用した動画コンテンツを制作・配信し、持続可能な文化芸術活動のモデルづくりを目指す。 https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/jokyo/yosan/r2/02yosan.files/0152_20_200430.pdf	文化観光局 文化振興課
	アーティスト・クリエイター等へのワンストップ相談対応事業	新型コロナウイルス感染症の影響により増加している事業損失等に関する専門的な相談に対応できるよう、文化芸術の担い手をサポートする「臨時相談センター“YES!”」を立ち上げ、国家資格を有する専門家(税理士・弁護士等)や、豊富な事例と経験をもつ相談員がオンライン上で無料相談対応を行う。 https://covid19.yafjp.org/yes/	文化観光局 創造都市推進課 ※窓口はアーツコミッション・ヨコハマ(横浜市芸術文化振興財団内)
川崎市	川崎市文化芸術活動支援事業奨励金	活動の場を制限されている市内の文化芸術の担い手等を支援するとともに、市民が文化芸術に触れる機会を提供することを目指し、文化芸術作品や子ども向けコンテンツ等の新規のインターネット用動画を募集し、1人当たり5万円(グループの場合上限30万円)の奨励金を交付する。募集人数600人程度。 [募集期間] 5月25日～6月10日 http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000117397.html	市民文化局 市民文化振興室
相模原市	指定管理者への損失補償	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う施設の休館等による指定管理者の損失を補償する。 https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/978/202005/gaiyou.pdf	市民局 文化振興課
新潟県	文化応援! にいがた結(むすぶ)プロジェクト	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、文化芸術活動の中止や延期により収入を得られなくなった文化団体および個人、県内の文化財等に対し、クラウドファンディングサービス「にいがた、いっば」(新潟日報社)を活用し、県民からの支援を募る。 [募集期間] 5月15日～29日 [クラウドファンディング期間] 6月5日～30日 https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/seisaku/musubuproject.html	県民生活・環境部 文化振興課 ※窓口は「文化応援! にいがた結プロジェクト事務局」(新潟県文化振興財団内)
新潟市	新潟市新型コロナウイルスに関する文化芸術相談窓口	市内を活動拠点とする文化芸術関係者を対象とした相談窓口をアーツカウンシル新潟(新潟市芸術文化振興財団)内に設置し、経済的影響に対する支援制度の案内やサポート、市内文化施設等の利用に関する情報提供、今後の活動に関する相談等にワンストップで対応する。 https://artscouncil-niigata.jp/3518/	文化スポーツ部 文化創造推進課 ※問い合わせ先はアーツカウンシル新潟(新潟市芸術文化振興財団内)
石川県	伝統芸能の維持・継承に向けた緊急支援	邦楽や日本舞踊など伝統芸能の公演を無観客で収録し、映像をインターネットで配信。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/zaisei/yosan/r2/documents/r2-4_yosangaiyo.pdf	県民文化スポーツ部 文化振興課
福井県	アーティストによる音楽ライブ等配信事業	県内を拠点に活動しているアーティストの演奏をインターネットで動画配信することで、アーティストの活動を支援する。第3期目となる6月20日からは、屋外でのライブ演奏を配信予定。 [第3期募集期間] 6月8日～14日 [ライブ配信日] 6月20日～28日の土日(計6回) https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/bunshin/livebosyu.html	交流文化部 文化課
長野県	頑張るアーティスト応援事業	発表機会を失った長野県ゆかりのアーティストまたは団体に対して、オンライン上で鑑賞可能な創作活動を発表するために要する経費を支援する。対象企画は「テーマ型」と「自由型」の2つ。補助額は「テーマ型」が1人当たり10万円(1件につき上限50万円)、「自由型」が1人当たり5万円(1件につき上限20万円)。 [募集期間] ～5月27日 https://www.pref.nagano.lg.jp/seibun/2020artist_support.html	県民文化部 文化政策課 芸術文化係
愛知県	愛知県文化芸術活動応援金	売上が前年同月比で50%以上減少している県内の文化芸術活動関係の法人、個人事業者(国の「持続化給付金」の支給対象)を支援するため、「文化振興基金」を活用して寄附を募り、応援金を交付する。交付額は個人事業者が10万円、法人が20万円。6月中旬に募集開始予定。 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bunka/bunkaouenkin2020001.html	県民文化局文化部 文化芸術課 振興第二グループ
	文化芸術活動緊急支援事業	県内文化施設の所蔵作品等を題材とした映像作品の制作をアーティストに委託し、オンライン配信を実施する「アーティスト等緊急支援事業」と、県内で長く継承されている伝統的な文化芸術活動の魅力を伝える映像作品を制作し、地元テレビ局で番組として放映するとともに、オンライン配信を実施する「伝統文化活動緊急支援事業」を予定。詳細については、決まり次第、県のウェブサイト等で発表予定。 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/332984.pdf	県民文化局文化部 文化芸術課 振興第一グループ
	美術品等取得基金特別枠	収入を得る機会が失われている日本在住の若手現代美術作家(20～40歳代まで)を対象に今年度から3年間、美術品等取得基金に1億円の特別枠を設け、現代美術作品を購入し、支援をする。購入した作品は今後、愛知県美術館でのコレクション展等、さまざまな機会を通じて紹介していく予定。 [実施期間] 2020年度～2022年度 https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/bunak0528.html	県民文化局文化部 文化芸術課 振興第一グループ

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

団体名	支援策名称	概要	担当部局
愛知県	文化活動事業費 補助金の拡充	県内に活動の本拠を置く文化団体が行う事業に対して交付している文化活動事業費補助金について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による中止事業、無観客公演事業を交付対象とするほか、採択件数の増、申請期限延長などの拡充を行う。 [募集期間] 5月28日～7月31日 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bunka/0000042975.html	県民文化局 文化部文化芸術課 企画グループ
名古屋市	ナゴヤ文化芸術活動緊急支援事業「ナゴヤ・アーティスト・エイド」	展覧会・公演等の中止により影響を受けたアーティストや製作スタッフなどの活動を支援する、ナゴヤ文化芸術活動緊急支援事業「ナゴヤ・アーティスト・エイド」。文化芸術活動に携わるプロのアーティスト等から、制作した映像作品を募集し、インターネット上で配信する。助成額は1人当たり10万円。 [募集期間] 5月25日～6月15日 http://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000128925.html	観光文化交流局 文化歴史まちづくり部 文化振興室企画事業係 ※窓口はナゴヤ・アーティスト・エイド事務局
京都府	京都府文化活動継続支援補助金(第一期)	文化活動を自粛・縮小せざるを得ない状況に置かれている方を対象に、活動再開に向けた企画から準備、公演に至るまで「今できる創作・表現活動」を幅広く支援。第一期では、4月1日から10月31日までの期間に企画・制作・実施される取り組みを対象に、最大20万円を補助(補助対象経費から市町村等の補助金を減じた額の3分の2以内)。 [募集期間] 4月30日～7月15日 ※第二期は7月16日～10月15日、第三期は10月16日～2021年1月15日までを予定。予算上限に達するまで。 https://www.kyoto-artsconsortium.jp/inquiry/	京都府文化芸術関係者支援相談窓口(文化スポーツ部 文化芸術課内)
	京都府文化芸術関係者支援相談窓口	困難な状況に置かれている文化芸術関係者のための相談窓口を4月30日に設置。「京都府文化活動継続支援補助金」の申請サポートだけでなく、国や市町村、民間も含めたさまざまな支援制度や窓口を案内。窓口には、自身もアーティストとして活動するとともに、芸術イベント等のマネジメントや補助金申請等の事務においても経験豊富な者を公募し配置。文化関係者の不安に寄り添いつつ、活動継続・再開のための助言や指導を行う伴走支援を実施。 https://www.kyoto-artsconsortium.jp/inquiry/	京都府文化芸術関係者支援相談窓口(文化スポーツ部 文化芸術課内)
京都市	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う京都市文化芸術活動緊急奨励金	発表・制作等の機会を失っている文化芸術関係者の活動を支援するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、現下の状況において安全かつ適切に実施できる文化芸術活動(企画・制作・リサーチ等)を募集し、審査のうえ奨励金(上限30万円)を交付する。 [募集期間] 5月7日～17日 https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000269026.html	文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課
大阪府	大阪文化芸術活動(無観客ライブ配信)支援事業補助金	営業を休止している府内の劇場、演芸場やライブハウス等の民間施設が、文化の発信拠点としての社会的な役割を継続できるよう、無観客ライブの配信事業の立ち上げを支援する。支援額は1施設当たり上限70万円(複数動画の配信が前提)。 [募集期間] 5月15日～7月17日 http://www.pref.osaka.lg.jp/bunka/shienhojyokin/index.html	府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
兵庫県	芸術文化活動機会促進動画配信事業	県内に活動の本拠を置くアーティストおよび文化芸術団体等を対象に、新たに制作する映像作品や動画をウェブ上に掲載発信するために要する経費の一部(5万円)を補助する。 [募集期間] 5月22日～6月30日 https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk18/dougahaishin.html	企画県民部知事公室 芸術文化課
	ひょうごアーティスト動画配信事業	県内に活動の本拠を置く個人・団体(概ね50歳未満)で、県域文化団体等からの推薦を受けた者を対象に、新たに出演・制作した動画(5～15分程度)を募集し、その出演料相当額(個人の場合9万円、団体の場合上限25万円)を支払う。動画は芸術文化協会のホームページ等に掲載し配信する。 [募集期間] 5月22日～6月30日 http://www.hyogo-arts.jp/?page_id=15345	企画県民部知事公室 芸術文化課 ※実施は兵庫県芸術文化協会 文化振興部 事業第2課
	県民芸術劇場動画配信事業	「県民芸術劇場事業」で活躍する登録団体が新たに出演・制作した動画(10～15分程度)を芸術文化協会のホームページ等に掲載し配信する。その出演料相当額として1件25万円を補助する。 [配信時期] 各団体で制作後、7月頃から順次配信予定 http://www.hyogo-arts.jp/?page_id=2487/	企画県民部知事公室 芸術文化課 ※実施は兵庫県芸術文化協会 文化振興部 事業第1課
	県域文化団体感染症予防対策事業	県域文化団体に対し、公演等にあたって必要とされる感染症予防対策(アクリル板、消毒液、非接触型体温計等の整備費)に係る費用を、1団体10万円補助する。	企画県民部知事公室 芸術文化課
	芸術文化活動の展開支援	県民会館や公立文化施設等で実施する無料のコンサートやリサイタル等の開催により、県民が気軽に芸術文化に触れる機会を拡充するとともに、県域文化団体が市町ホール等で実施する芸術文化事業を支援する。	企画県民部知事公室 芸術文化課
神戸市	アーティストからの動画を募集! #うちで過ごそうアートプロジェクト第2弾	神戸市に活動の本拠を置くアーティストを対象に、外出自粛の啓発動画作品を募集し、その制作に謝礼(2万円)を支払う。動画はインターネット上で配信される。 [募集期間] 4月30日～5月22日 https://www.city.kobe.lg.jp/a05822/press/838667126889.html	企画調整局つなぐラボ 文化スポーツ局 文化交流課

団体名	支援策名称	概要	担当部局
神戸市	STAY HOME #うちで過ごそうアートプロジェクト第3弾	神戸市に活動の本拠を置くアーティストを対象に、動画作品を募集し、その制作費(上限1人当たり5万円、5人以上のグループの場合上限25万円)を支払う。動画はインターネット上で配信される。 [募集期間]5月8日～31日 https://www.city.kobe.lg.jp/a36708/kanko/bunka/gejutsu/artist_shien.html	文化スポーツ局 文化交流課
鳥取県	アートの灯を守る!とっとりアート支援事業	県内に活動の本拠を置くアーティストおよび文化芸術団体等を対象に、以下の経費の10分の10(上限50万円)を支援する。①機材賃貸により映像配信を行う際に要する機材賃貸費、配信経費等、②県内で行う無観客公演・展示等の映像配信のために導入した機材費等。 ※①、②とも5月末で終了 https://www.pref.tottori.lg.jp/bunkaseisaku/	地域づくり推進部 文化政策課
	とっとり発コロナ危機打破!アート活動支援事業	県内に活動の本拠を置くアーティストおよび文化芸術団体等を対象に、県外のアーティストおよび文化芸術団体等の活動者と協働で行う作品(演劇・音楽等)の制作、発表に要する経費の10分の10(上限350万円)を支援する。 [募集期間]6月下旬以降(予定) https://www.pref.tottori.lg.jp/bunkaseisaku/	地域づくり推進部 文化政策課
広島市	文化芸術振興臨時支援事業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動の中止・延期を余儀なくされている文化芸術関係者5者以上を“共助の精神”に立って支援する取り組み(例:作品・公演の動画配信サイトの制作、オンラインによる各種教室の開催など)に対し、奨励金を支給する。また、共助の取り組みのうち、動画配信等に係る取り組みにプロアーティストが参加する場合、奨励金を上乗せして支給する。 [募集期間]6月中旬から募集予定 https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/132128.html#bunka	市民局 文化スポーツ部 文化振興課
徳島県	あわ文化緊急対応事業	・県内アマチュア演奏者に対し、オンラインによる演奏指導を行い、音楽文化活動の継続支援や、県内在住の演奏者の演奏技術を向上させるとともに、新たな指導方法の波及を図る。 ・「阿波人形浄瑠璃」や「阿波おどり」など「あわ文化」をテーマに、無観客ならではの自由なカメラワークによるVR動画等の「デジタルコンテンツ」を制作し、「あわ文化」の魅力発信効果が長期間持続する取り組みを実施する。 https://www.pref.tokushima.lg.jp/kenseijoho/zaisei/5036540	未来創生文化部 県民文化課
北九州市	アートでつなぐ未来プロジェクト	北九州市に活動の本拠を置くプロのアーティストやスタッフ等を対象に、規定のテーマに沿った動画作品を募集し、アーティストやスタッフ等に出演料(1人当たり5万円(作品当たり50万円を上限))を支払う。動画はインターネット上で配信される。 [募集期間]5月25日～6月24日 ※予算額に達し次第終了 https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shimin/26501380.html	市民文化スポーツ局 東アジア文化都市推進室 ※窓口はアートでつなぐ未来プロジェクト事務局
	民間文化施設等事業者緊急支援事業	緊急事態宣言を受け休業等に応じた市内の民間文化施設(店舗)等を営業する事業者を対象に、無観客でのパフォーマンスの映像配信に関する設備等の購入経費、事業の再開に向けて必要となる施設の感染防止対策に関する設備等の導入費用といった経費の5分の4(上限50万円)を支援する。 [募集期間]5月8日～6月30日 https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shimin/26501378.html	市民文化スポーツ局 文化企画課 民間文化施設事業者支援担当
福岡市	文化・エンターテインメント施設への事業継続支援金	福岡市内のライブハウス・劇場などの施設に対し、無観客での映像配信設備等に係る経費の5分の4(上限50万円)を支援する。 [募集期間]5月1日～6月30日 https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/contents/business/coce.html	経済観光文化局 国際経済・コンテンツ部 コンテンツ振興課
	文化・エンターテインメント活動支援金	福岡市を拠点に活動するプロアーティストが出演する動画作品を、イベント関連事業者等と共同で制作し、配信を行うものについて1作品につき上限50万円を支援する。 [募集期間]1次募集:6月1日～15日/2次募集:6月16日～30日 https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/contents/health/coce2.html	経済観光文化局 国際経済・コンテンツ部 コンテンツ振興課 ※問い合わせ先は文化・エンターテインメント活動支援金受付センター
佐賀県	新しい文化芸術表現モデル創出事業	新型コロナウイルス感染拡大防止のために、今後も3密回避が求められる中で、リアル公演とオンライン配信を組み合わせ文化芸術祭「LiveS Beyond」を開催することにより、新たな文化芸術活動のモデルの創出を図る。 https://www.pref.saga.lg.jp/list00022.html	地域交流部 文化・スポーツ交流局 文化課
宮崎県	令和2年度県民芸術祭	県内に活動の拠点を置く文化団体に対し、新型コロナウイルス感染拡大防止の状況を受け採択枠を増設し助成を行う。感染防止対策への経費補助のほか、ポストコロナにおける実験的な事業の実施や開催できなかった事業の縮小復活開催、リモートライブ・ネット配信に対し助成するとともに、そうした事業実施に必要な技術やノウハウを提供するなど、日常的な活動ができない団体への伴走型支援も行う。なお、申請にはアーツカウンシルみやざきへの事前相談が必要。 [事前相談期間]6月3日～7月17日 [募集期間]6月3日～7月22日 https://www.miyazakigeibun.jp/news/open-recruitment/2020/06/04/572/	総合政策部 みやざき文化振興課 文化担当 ※窓口はアーツカウンシルみやざき(宮崎県芸術文化協会内)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●令和3(2021)年度リージョナルシアター事業

◎派遣アーティスト

多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

田上豊(劇作家・演出家、田上パル主宰)

有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)

福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)

ごまのはえ(劇作家・演出家・俳優、ニッポキャップシアター代表)

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原・宮下

Tel. 03-5573-4124

※実施要綱・申込書は当財団ホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html#boshu>

●令和2(2020)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」

◎実施要綱・応募方法

実施要綱、応募書は当財団ホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/award/01.html#boshu>

都道府県・政令指定都市は当財団に直接ご応募ください。市区町村は、当財団ホームページに掲載した都道府県の担当課を経由して提出してください。

◎問い合わせ

総務部 三田

Tel. 03-5573-4184

taishou@jafra.or.jp

●令和3(2021)年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

演出家や俳優(以下、派遣アーティスト)を公共ホールに最大3回派遣し、公共ホールと共に演劇の手法を使ったワークショップを企画・実施する「リージョナルシアター事業」の参加団体を募集します。

この事業では、主に学校等の施設を訪れて子ども等を対象にワークショップを行うアウトリーチや、ホール等で多様な参加者に応じたワークショップを実施します。地域のニーズやホールの目指す方向性に合わせてプログラムを自由に企画することができ、演劇の表現者と共にワークショップを行うことで、地域の課題に取り組むことが可能になります。また、公共ホール等の企画・制作能力の向上、ホールの活性化も期待できます。

これまでの事業では、小中学校の授業内で

のアウトリーチや、市民とともに街歩きやホール探検をして地域・ホールの魅力を再発見する公募型ワークショップ、行政職員や教員の研修として行うワークショップなど、多岐にわたるプログラムを実施しています。

各地域での事業実施前には参加団体と派遣アーティストによる研修会を実施します。過去の事例紹介やワークショップ体験、事業実施に向けた打ち合わせを行いながら、各地域の課題や展望を共有していきます。

演劇の手法を使った新しい取り組みへの挑戦や、派遣アーティストの新しい視点を活用したいというホールの皆様のご応募をお待ちしています。詳細は当財団ホームページをご覧ください。

<https://www.jafra.or.jp/project/theater/02.html>

募集締切:2020年8月17日(月)必着

令和2(2020)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」へのご応募をお待ちしています!

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設の活動のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。

●表彰対象

- 開館から概ね5年を経過している(廃校施設等の転用施設を含む)
- 地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績を挙げている
- 条例により公の施設として設置および管理されている
- 以下の[1]～[5]を主な活動分野としている文化施設。
[1]音楽分野、[2]演劇・ダンス分野、[3]伝統芸能分野、[4]美術分野、[5]その他(文化・芸術の新機軸となり得る創意工夫をこらした文学、歴史などで[1]～[4]の分野と連携しながら継続的に事業を展開していると認められるもの)

●審査の主なポイント

- 地方公共団体等が、文化・芸術による地域振興やふるさとづくりという地域を豊かにするための行政の目的に沿った芸術文化振興ビジョンや公

立文化施設の理念、使命を持ち、それを達成するための施設運営がなされているかどうか

- 先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいるか
- 地域住民の文化・芸術活動の育成支援、教育普及活動、住民参加・参画など地域住民との協働(コラボレーション)に意欲的に取り組んでいるかなど

●これまでの受賞施設等

平成16(2004)年度から令和元(2019)年度までの16年間で、123施設が地域創造大賞に輝きました。受賞施設の設置主体は、いわゆる小規模町村から政令指定都市・都道府県まで、広範にわたっています。「塩電市杉村惇美術館(令和元年度受賞・宮城県塩電市)」は美術館兼公民館で地域ゆかりの洋画家・杉村惇の作品を常設展示するほか、まちの記憶を掘り起こすユニークな企画を展開するなど活力ある地域づくりに貢献しました。また、「アルカスSASEBO(令和元年度受賞・長崎県及び佐世保市)」は市民演奏団体約100組が出演する「アルカス九十九島音楽祭」など、音楽を通じた交流で活力ある地域づくりに貢献している施設です。

募集締切:2020年7月21日(火)

財団からのお知らせ

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ

総務部 三田・高野
Tel. 03-5573-4184

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団ホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/recruitment.html>

◎[I]「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当者会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

●令和3(2021)・4(2022)年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、令和3・4年度に実施される事業の参加館を募集します。

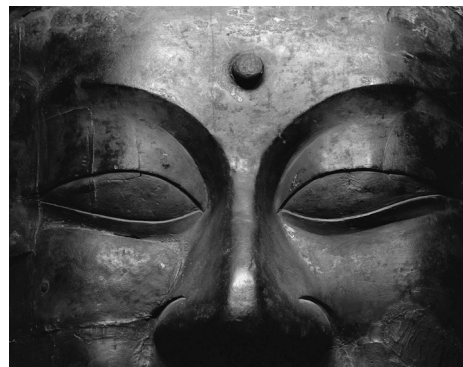
募集締切:2020年11月30日(月)

[I] 令和3年度準備・4年度開催「市町村立美術館活性化事業」

この事業は、地域創造が提示する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。

今回、令和4年度開催の共同巡回展として、『^{どもんげん}土門拳記念館所蔵『土門拳写真展—真実を見つめる眼』展』(仮称)の参加館を募集します。土門拳記念館から土門拳のライフワークや代表作を含むシリーズをお借りできます。

土門拳(1909～90)は、激動の昭和を独特のカメラアイで切り撮り、日本の写真界に大きな足跡を残した写真家です。戦前、戦中、戦後、復興、高度成長と、日本社会全体が目まぐるしく変化していく中、強烈な個性とこだわりをもって、一貫してそこに生きる日本人や現実社会を撮り続けました。また、同時に、伝統的な文化や古寺を大型カメラで見据え、独特の美意識で、連綿と続く日本人の心を追求し続けました。発表された数多くの作品と土門の写真に対する考え方は、その時々社会に大きな影響を与え、日本の写真文化の形成にも大きな役割を果たしてきました。



飛鳥寺金堂釈迦如来坐像面相詳細(1964年)
撮影:土門拳

作品の貸出協力館である土門拳記念館は、一人の作家をテーマにした世界でも珍しい写真専門の美術館として、土門の郷里である山形県酒田市に1983年10月に開館しました。土門のライフワークであった『古寺巡礼』をはじめ、『室生寺』『ヒロシマ』『筑豊のこどもたち』『文楽』『風貌』などの作品約7万点を収蔵しています。今回はその中から代表作である『古寺巡礼』をはじめ、戦前～戦後の日本社会を映し出した作品(「土門拳の愛した下町」「戦後の地方」「昭和のこどもたち」ほか)や、土門自身が尊敬する人、親しい人たちなど各界の著名人を撮影した肖像写真『風貌』など360点が展示可能となります。

土門拳は、第二次世界大戦後の混沌と激動の日本において、「日本人の姿と日本の心」を写し止め、どの分野のテーマにも、“ほんもの＝真実”にこだわり続けました。土門の「眼」と作品が、私たち日本人が進むべき心の拠り所となり、また生き方を考える道標になるような展覧会になれば、と貸出協力館・本展アドバイザーを務める土門拳記念館の想いがあり、「真実を見つめる眼」をテーマに本展に貸出可能な作品を選定していただきました。

今回は、土門拳記念館の協力のもと、日本の写真を牽引してきた土門拳を紹介する共同巡回展の参加館を募集いたします。携帯電話にもカメラ機能が搭載され、写真を撮るという行為が身近になった昨今、写真やカメラの文化を改めて見つめ直すことのできる企画内容にもなっていますので、皆様のご応募をお待ちし



母のない姉妹 るみえちゃん(1959年)
撮影:土門拳



梅原龍三郎(1941年)
撮影:土門拳

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

ております。

この事業では、参加館による実行委員会を結成し、令和4年度に巡回展を開催するほか、準備年度事業として、令和3年度から学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと、企画の具体化や調査研究、制作実務を分担して進めます。

地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

【Ⅱ-①】令和3年度準備・4年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」

【Ⅱ-②】令和3年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」

3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、令和3年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、令和4年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2,000万円を上限に助成します(なお、開催年度助成金については、決定額の50%までの前金払い請求が可能です)。

「単年度プログラム」は、令和3年度に開催さ

れる共同巡回展について、A.作品借用・展示関連経費への助成と、B.図録作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、A.については500万円、B.については300万円を上限に助成します。

【Ⅲ】令和3年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による、「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。地域創造は学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成するほか、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

【Ⅳ】令和3年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会(異なる展覧会も可)に関連し、各館の展示内容やテーマ(作家、素材、技法、様式、モチーフなど)をもとに自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

◎【Ⅱ-①】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」申請方法

- 準備年度：各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
- 開催年度：準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

◎【Ⅱ-②】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

◎【Ⅲ】「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および【Ⅳ】「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

事業名		対象となる美術館 (*1)	申請について	助成措置		
				助成率 (*2)	上限額	助成期間
[Ⅰ]	市町村立美術館活性化事業	市区町村(政令指定都市を除く)の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：10/10 開催年度：2/3	準備年度：100万円 開催年度：1,200万円	2年間
[Ⅱ-①]	公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請 (代表館が取りまとめる) ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：2/3 開催年度：2/3	準備年度：150万円 開催年度：2,000万円	
[Ⅱ-②]	公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)		3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請 (代表館が取りまとめる)	2/3	作品借用・展示関連：500万円 カタログ作成関連：300万円	1年間
[Ⅲ]	公立美術館共同巡回展企画支援事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請 (代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	
[Ⅳ]	公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請 (代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	

*1 公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。

*2 [Ⅰ]の開催年度および[Ⅱ]-①については、対象経費の合計額から収入を控除した額の助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2020年9月号情報締切
7月31日(金)

●2020年9月号掲載対象情報
2020年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目
Tel. 011-642-5709 山田のぞみ
<http://www.hongoshin-smos.jp/>

わくわく★アートスクール2020 「ファンタジー×リアリティ」

札幌在住のアーティスト、クスマエリカが市民からウェブ上で提供されたひとつひとつの写真を繋ぎ合わせて作品を制作し、美術館で展示する。本事業は平成29年から近隣の小中学校とアーティストとの出会いの場を創出し、共同制作作品を発表する「わくわく★アートスクール」として実施されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は学校との共催を見送り、対象を一般に拡大した上で、自宅から参加できる取り組みに内容を変更して開催。
[日程] 6月27日～7月16日
[会場] 本郷新記念札幌彫刻美術館

●北海道鹿追町

神田日勝記念美術館
〒081-0292 河東郡鹿追町東町3-2
Tel. 0156-66-1555 杉本圭吾
<http://kandanissho.com/>

企画展「夏空を翔けた馬たち」

NHK連続テレビ小説『なつぞら』(2019年)にて、主人公に影響を与えた画家「山田天陽」のモチーフが神田日勝だったこと

を縁に、展示室1階に『なつぞら』に登場した天陽の作品、2階に日勝の小品風景画を展示し、美術館を舞台に両者の共演が実現。新型コロナウイルス感染症対策の一環として、展示室には10組までの入場制限を設けるほか、来館者同士が十分な距離を保てるよう、2メートル間隔で足跡マーキングを設置する等の対応が行われている。

[日程] 5月26日～7月5日

[会場] 神田日勝記念美術館

●青森県青森市

青森公立大学 国際芸術センター青森(ACAC)
〒030-0134 青森市大字合子沢字山崎152-6
Tel. 017-764-5200 慶野結香
<http://www.acac-aomori.jp/>

「いのちの裂け目―布が描き出す近代、青森から」

アジアを拠点に活躍する3人の女性芸術家と青森市教育委員会所蔵の文化財による展覧会。過去の「青森市所蔵作品展」の流れを汲みつつ、裂織や刺し子、ボロ等、青森の民俗資料から着想を得た新作や、文化財によるインスタレーションを展開。戦前の女子教育・洋学受容や戦争と花火、台湾原住民族と日本の関わりなどについて、アーティストが各視点で描く。トークイベントを、オンラインのライブ配信とするなどのコロナ対策を取っている。

[日程] 5月7日～8月30日

[会場] 青森公立大学 国際芸術センター青森



遠藤薫《閃光と落下傘》部分(ACAC提供)

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

昭和のしおがま

―あの頃の町並みから―

チリ地震津波災害や東日本大震災など、震災復興のたびに町並みが大きく変容してきた塩竈。市民が撮影した昭和の写真を通して塩竈の今を見つめる。新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、展示室での展示を断念し、ホームページと市役所の展示スペースでの公開に切り替えた。休館中には、昭和の写真と同じアングルから新たに撮影した写真を並べてSNSに掲載するなど、地域性の高い企画展を市民に発信し続けた。
[日程] 4月16日～6月22日
[会場] 塩竈市役所番館庁舎ウィンドウほか

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6
Tel. 0246-22-8111 佐藤よしのり
<https://iwaki-alios.jp/>

いわきアリオス落語会 特別版

オンラインコンテンツ「おうちでアリオス」により、休館中も芸術文化を発信してきたアリオスが、劇場での事業を再開する。着目したのは、集団での稽古や大がかりな舞台装置を必要とせず、話芸を想像力で楽しむことができる落語。定員を制限し、来場者情報を把握できるよう往復ハガキでの申し込みとしている。また、さまざまな理由で劇場へ来ることができない人への鑑賞機会の創出を劇場のバリアフリーとして考え、どこでも鑑賞できるよう、FMいわきでの放送や期間限定のYouTube配信を予定している。

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 7月26日
[会場] いわき芸術文化交流館ア
リオス 中劇場

関東

●東京都町田市



町田市立国際版画美術館
〒194-0013 町田市原町田4-
28-1
Tel. 042-726-2771 町村・高野
<http://hanga-museum.jp/>

インプリントまちだ展2020 「すむひととくるひとー『アー ティスト』がみた町田ー」

4年にわたるシリーズ展の集大成となる展覧会。これまでの招聘作家3名の作品に加え、町田市がホストタウンを務めるインドネシアからアーティストのアグン・ブラボウォを招き、町田の市街地を取材し制作された新作を含めた、日本初公開となる作品を展示する。臨時休館中は、SNSで「おうちで美術館」シリーズとして、同展の展示作品などを紹介。今後も引き続き、SNSを活用したコンテンツの展開を検討している。

[日程] 6月9日～9月13日

[会場] 町田市立国際版画美術館

北陸・中部

●新潟市

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化
会館
〒951-8132 新潟市中央区一
番堀通町3-2
Tel. 025-224-7000 中尾友彰
<https://www.ryutopia.or.jp/>

「Stay at Niigata Concert」 ～新潟ゆかりのアーティストに よるガラ・コンサート～

コロナ禍でも、市民に音楽を聴く良質な時間を提供することを目的に、2日間で6公演を開催。公演を1時間に設定し、休憩時間をなくすことで人が密集するのを避けるほか、座席数を制限するなどの対策を実施。出演

は、演奏とトーク力に定評のある同館登録アーティストと、この事業のために公募した新潟県在住の音楽家の計12組。いずれも生の音楽を望む市民に特別な時間を提供すべく、熱い想いをもって本番に臨む。

[日程] 7月4日、5日

[会場] りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

●静岡市

静岡市美術館
〒420-0852 静岡市葵区紺屋
町17-1 葵タワー3F
Tel. 054-273-1515 大石・山本
<https://shizubi.jp/>

静岡市所蔵品 特集展示 「見るよこび：東海道図屏風・ 竹久夢二を中心に」

新型コロナウイルス感染症拡大により開催延期となった「東海道の美 駿河への旅」の代替展示として、近世の東海道のにぎわいが偲ばれる「東海道図屏風」を紹介する展覧会。併せて、大正時代から多くの人に愛されてきた竹久夢二の作品など静岡市所蔵品も展示する。静岡で守り伝えられてきた美術品を通じて、さまざまな時代の求めに応じて生み出された表現の多様さ、豊かさを楽しむことができる。

[日程] 6月17日～7月19日

[会場] 静岡市美術館

近畿

●京都市

京都市京セラ美術館
〒606-8344 京都市左京区岡
崎円勝寺町124
Tel. 075-771-4334 中谷至宏
<https://kyotocity-kyocera.museum/>

開館記念展

「京都の美術 250年の夢 最初 の一步：コレクションの原点」

京都市京セラ美術館(京都市美術館)は、3月21日に迎える

予定だったリニューアルオープンが新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期されていたが、5月26日に開館。開館記念展「京都の美術 250年の夢」のプロローグとして、美術館の開館3年目(1935年)に初めて行われた「本館所蔵品陳列」に出品された、初期の所蔵作品47点を一挙に公開。コレクションの「最初の一步」を85年前に遡って鑑賞することで、再出発する美術館のコレクションの将来への「夢」を描いてもらおうという企画。なお、日時指定の事前予約制により入館制限を実施。

[日程] 6月2日～9月6日

[会場] 京都市京セラ美術館



中村大三郎《ピアノ》(1926年/京都市美術館蔵)

中国・四国

●島根県益田市

島根県芸術文化センター「グラン
トワ」
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 川西由里
<http://www.grandtoit.jp/>

コレクション展

「キカガク×アート」

益田市出身アーティスト・野村康生の作品を含む、○△□など幾何学模様がベースの作品によるコレクション展。野村を応援する地元の有志団体がクラウドファンディングにより資金を集めて購入した作品が寄贈されたことを機に企画された。野村がニューヨークのスタジオから自身の作品などを紹介する動画も配信中。NASAによる火星の地形画像を基にした作品やさまざまな芸術で使われる黄金比の解説などもある。

[日程] 3月28日～7月13日

[会場] 島根県立石見美術館(島根県芸術文化センター「グラントワ」内)



野村康生《Noctis Labyrinthus》

●山口県長門市

香月泰男美術館
〒759-3802 長門市三隅中226
Tel. 0837-43-2500 丸尾いと
<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/kazukiyasuo/>

「香月泰男の表現 石と水」

香月にとって身近なモチーフである石と水をテーマに取り上げ、描かれた石の丸みや凹凸の形状、川の表現という視覚的なものから、音、動きなどに想像を働かせることで、香月の表現の多様性を愉しむことができる。7月3日からは、近隣の金子みすゞ記念館でも石をテーマにした展示が始まることから、両館で連携したギャラリートークやワークショップの開催も予定されている。

[日程] 5月30日～8月31日

[会場] 香月泰男美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡アジア美術館
〒812-0027 福岡市博多区下
川端町3-1 リバレインセンター
ビル7・8F
Tel. 092-263-1100 柏尾沙織
<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

コレクション展

あじびへアカタログ

休館中は「#おうちであじび」として、過去に当該美術館に滞在したことのあるアジア各地のアーティストの現地報告をSNSに

掲載するなど、常にアジアとの繋がりを感じられるように発信し続けてきた。感染症対策のための新たな鑑賞ルールを設定し、開館を再開。本展では、アジア各地の作品に登場するさまざまな髪型や、色鮮やかなカラーヘアやパンクスタイルなどに着目することで、ある地域やコミュニティに特有の文化や時代の流行などにも目を向ける。
[日程] 6月25日～9月22日

[会場] 福岡アジア美術館

●長崎県長崎市

長崎県美術館
〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 稲葉友汰
<http://www.nagasaki-museum.jp/>
「くらべてみれば、みえるもの。
—長崎県美術館コレクションから—
長崎県美術館はこれまで「長崎ゆかりの美術」と「スペイン

美術」の2つを柱として収集活動を行い、開館15周年を迎える現在、約8,000点にものぼる作品を収蔵している。本展では6人の学芸員が“くらべる”ことに焦点を当てたテーマをそれぞれ設定し、収蔵品を紹介。各テーマに沿って比べながら鑑賞することで、改めて作品のもつ魅力を探る試み。
[日程] 5月25日～9月22日
[会場] 長崎県美術館

オンラインを活用した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で広がるオンラインを活用した取り組みをご紹介します。
※実施施設の北から順に掲載

●長野県長野市

コロナに負けるな!「おうちで芸術館」プロジェクト

「皆様のご自宅とアーティストを直接つないでしまおう!」をコンセプトに、直近に出演予定だったアーティストたちが撮影した動画を順次配信するほか、芸術館レジデント・プロデューサーのピアニスト・加藤昌則によるレクチャー企画が地元ラジオ局とコラボした「ラジオで『ぶっとび!クラシック』」など、さまざまなプロジェクトを企画。また、できる限りの感染予防対策の上、児童センターに集まっている子どもたちに地元のアーティストが音楽を届けるアウトリーチ「お届け芸術館」を開催。
[公開期間] 5月18日～
[URL] <https://www.nagano-arts.or.jp/topic/ouchi-de-ncac/>
[問い合わせ] 長野市芸術館
Tel. 026-219-3100

●長野県松本市

TCアルププロジェクト「じゃり」関連イベント「ユビュ狼」

まつもと市民芸術館レジデント劇団「TC アルプ」が、不条理演劇の端緒と言われる『ユビュ王』の作者アルフレッド・ジャリの数奇な人生を描く『じゃり』を上演するに当たり、オンライン人狼ゲーム「ユビュ狼(ゆびゅうろう)」を企画。当初はスタジオを使用していたが、外出自粛が続く状況のため、ZOOMを

夏のフェスティバル実施状況				
都道府県	市区町村	事業名	会期	中止・延期(延期日)・内容変更
北海道	札幌市	パシフィック・ミュージック・フェスティバル 札幌(PMF) 2020	7月10日～8月3日	中止
	札幌市	サッポロ・シティ・ジャズ2020	7月4日～10月7日	7月公演(パークジャズライブ、パークジャズライブコンテスト)中止
	東川町	第36回東川町国際写真フェスティバル	8月1日～9月2日	一部中止および「第36回写真の町東川賞授賞式関連事業」延期(2021年3月30日～5月5日)
福島県	喜多方市	喜多方発21世紀シアター2020	8月7日～10日	中止
茨城県	ひたちなか市	みなとメディアミュージアム2020	8月31日～9月12日	延期(2021年8月)
群馬県	草津町	第41回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル	8月17日～30日	中止
東京都	千代田区ほか	東京ビエンナーレ	7月12日～9月6日	コア期間延期(2021年7月～9月予定)およびブレ期間としてプロジェクトごとに展開(2020年6月～2021年7月予定)
	横浜市	ヨコハマトリエンナーレ2020	7月3日～10月11日	開幕日を延期(7月17日～10月11日)
神奈川県	川崎市	フェスタサマーミュージックKAWASAKI 2020	7月23日～8月10日	ライブ映像配信(一部無料)および有観客公演による開催
	佐渡市	アース・セレブレーション2020	8月21日～23日	無観客・オンライン配信による開催
富山県	富山市	2020年とやま世界こども演劇祭	8月18日～22日	延期(2021年5月1日～5日)
石川県	南砺市	スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2020	8月21日～23日	中止
	珠洲市	奥能登国際芸術祭2020	9月5日～10月25日	延期(2021年9月4日～10月24日)
山梨県	富士河口湖町	富士山河口湖音楽祭2020		ブレ企画公演(6月14日、7月4日、5日)中止
長野県	松本市	2020セイジ・オザワ 松本フェスティバル	8月21日～9月4日	中止
	飯田市	いいだ人形劇フェスタ2020	8月6日～10日	中止
	大町市	北アルプス国際芸術祭2020	5月31日～7月19日	延期(延期日未定)
	軽井沢町	軽井沢国際合唱フェスティバル2020	7月24日～26日	中止
	御代田町	浅間国際フォトフェスティバル2020		中止
	木曽町	木曽音楽祭	8月27日～30日	中止
兵庫県	豊岡市	Toyooka Art Season2020	5月31日～9月30日	中止、延期イベントあり
広島県	広島市	第18回広島国際アニメーションフェスティバル	8月20日～24日	規模を縮小して開催
	三原市、尾道市、福山市	ひろしまトリエンナーレ2020 in BINGO	9月12日～11月15日	中止
大分県	由布市	第45回湯布院映画祭	8月27日～30日	検討中
鹿児島県	西之表市、中種子町、南種子町	種子島宇宙芸術祭2020		検討中
	霧島市	第41回霧島国際音楽祭2020	7月17日～8月2日	延期(延期日未定)
沖縄県	那覇市ほか	2020りっかりっか*フェスタ(国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ)	5月2日～10日	延期(2021年3月)

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

使用して自宅で気軽に参加できるゲーム大会として開催することに。ゲームにはTCアルブのメンバーも参加した。

[開催日]5月24日、27日、30日、31日

[URL]<https://www.mpac.jp/join/34494/>

[問い合わせ]まつもと市民芸術館
Tel. 0263-33-3800

●愛知県長久手市

文化の家動画プロジェクト 「おうち動画」

契約アーティスト「文化の家創造スタッフ」や、文化の家が実施する福祉事業専門に活動する「フランチイズアーティスト」が制作した動画を配信。『魔界補佐官ブラックトミーの文化芸術研修』は、フランチイズアーティストの石川貴憲が専門分野であるクラシックサクソンの魅力を、もっと多くの人に知ってもらいたいとの思いから生まれたシリーズ。シナリオや撮影、コスチュームデザインなどすべて文化の家スタッフ、アーティストでつくり上げた楽しいオリジナルムービーになっている。

[公開期間]4月26日～

[URL]<https://www.youtube.com/watch?v=VOXAlt6Gp9Q&feature=youtu.be>

[問い合わせ]長久手市文化の家
Tel. 0561-61-3411



●三重県津市

お家で楽しもう

三重県総合文化センターではオンラインで過去の演劇や音楽プログラムなどを中心に紹介する「お家で楽しもう」を開設。

過去に行った文学の名作を俳優によるリーディングで味わう「MPAD」や、0歳から楽しめる「ヘンゼルとグレーテルスライドコンサート」が動画で楽しめる。また県内ゆかりのアーティストがダンスや伝統芸能などのオンライン講座も配信している。

[公開期間]5月4日～

[URL]<https://www.center-mie.or.jp/stayhome.html>

[問い合わせ]三重県総合文化センター
Tel. 059-233-1100

●堺市

こどもオペラ『まほうのふえ』 ～パミーナ姫のたんじょうび～

2019年10月にグランドオープンしたフェニーチェ堺では、オープニングプログラムの中から、『魔笛』を大人も子どもも楽しめる内容に再構成した「こどもオペラ」を期間限定で無料配信(字幕機能あり)。Facebookでは、「秘密の舞台技術スタッフ」と題して、音響や照明で本番をサポートをする、いわゆる「裏方さん」の仕事をセクションごとに動画で紹介している。

[公開期間]5月13日～

[URL]<https://www.youtube.com/watch?v=i1GU-2e0xKM&t=732s>

[問い合わせ]フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)

Tel. 072-228-0440

●神戸市

HPACすみれの花咲く頃プロジェクト

兵庫県立芸術文化センター(HPAC)芸術監督・佐渡裕の「こんな時だからこそみんなに笑顔を」という想いから発足されたプロジェクト。兵庫芸術文化センター管弦楽団メンバーが自宅で演奏した宝塚歌劇団定番の唱歌『すみれの花咲く頃』に合わせ、楽器の演奏や歌、ダンス、手拍子などで参加した動画を専用

のページに投稿するというもの。6月上旬までに300本もの動画が投稿され(6月15日まで募集)、投稿された動画はPACメンバーと共演する形で編集し、随時YouTubeで公開されている。

[公開期間]4月20日～

[URL]http://www1.gcenter-hyogo.jp/news/2020/04/0421_SUMIRE%20Project.html

[問い合わせ]兵庫県立芸術文化センター
Tel. 0798-68-0223



●鳥取県倉吉市

緊急企画 #どこでも未来中心

この状況の中でホールが何をできるかを職員で話し合い、緊急企画を立ち上げ。倉吉未来中心にゆかりのアーティストの動画を紹介する「自宅で楽しむ ネットでアート!」、世界中に広がる医療従事者への感謝の思いを込めた「ブルーライトアップ」の動きや趣旨に賛同し、会館所有の照明機材を用いて、臨時休館中(4月29日～5月6日)施設のライトアップを実施。どのように青い明かりをつくったのか、普段は見られない裏側を紹介している。

[公開期間]4月29日～

[URL]<http://cms.sanin.jp/p/miraichushin/mirai/4/>

[問い合わせ]鳥取県立倉吉未来中心
Tel. 0858-23-5391

●徳島県徳島市

おうちで人形浄瑠璃

徳島が誇る阿波人形浄瑠璃を常打ちする専門館・阿波十郎兵衛屋敷では、公演できない期間(6月6日より公演再開)、自宅で過ごす人に少しでも豊かな時間を過ごしてもらおうと、さまざま

なコンテンツをYouTubeで発信。阿波人形浄瑠璃の歴史や伝統、人形浄瑠璃の基礎講座をはじめ、人気外題『傾城阿波の鳴門順礼歌の段』をベースに、新型コロナウイルスの感染予防を呼びかける内容にアレンジした友和嘉会と阿波人形浄瑠璃研究会青年座による『衛生阿波の鳴門 コロナ対策の段』といった感染対策を喚起する動画など、充実したコンテンツとなっている。

[公開期間]4月10日～

[URL]https://awajurobeyashiki.blogspot.com/2020/04/blog-post_10.html

[問い合わせ]徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
Tel. 088-665-2202



●鹿児島県鹿児島市

おうち de エンジョイ!

宝山ホールでは、職員による手づくり楽器の紹介と鹿児島県文化振興財団アーティストバンク登録アーティストの多彩なパフォーマンスをYouTubeで配信。「～宝山ホールスタッフが贈る～『おうちで楽器を作ろう!演奏しよう!』」では、ペットボトルやゼムクリップを使って手軽につくれる楽器で合奏を披露。「特等席はおうち!」はクラシック音楽やコンテンポラリーダンス、タップダンス、日本舞踊など、登録アーティストを紹介している。

[公開期間]4月24日～

[URL]<https://www.houzanhall.com/info-pickup/3513/>

[問い合わせ]宝山ホール
Tel. 099-223-4221

アウトリーチ事業を行うホールが着実に増加

2019年度 「地域の公立文化施設実 態調査」③

専用ホール

*2019年度「地域の公立文化施設実態調査」報告書は、地域創造ホームページに掲載しています。

<https://www.jafra.or.jp/library/report/2019/index.html>

●2019年度「地域の公立文化施設実態調査」調査概要

○調査対象

公立文化施設のうち、「専用ホール」、「その他ホール」、「美術館」、「練習場・創作工房（アーティスト・イン・レジデンス施設を含む）」およびそれらを含む「複合施設」と、施設の設置主体にあたる地方公共団体。

○調査時期

2019年9月～11月

○調査方法

全国の地方公共団体の文化振興ご担当者へ、当該団体が設置主体となっている調査対象施設を記入する「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」、「施設調査票」を配布。当該団体において「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」の記入および「施設調査票」の各施設への配布と取りまとめをしていただいた。

○調査回収数

●地方公共団体票の有効回収数

1,645（都道府県47（100%）、政令市20（100%）、市区町村1,576（91.6%）、一部事務組合2）

●地方公共団体からの回答

3,442館 延べ3,671施設
（「専用ホール」1,483、「その他ホール」1,363、「美術館」648、「練習場・創作工房」177）

●地方公共団体から回答があった3,442館のうち、施設からの施設調査票の有効回収数

3,343館 延べ3,568施設
（「専用ホール」1,455、「その他ホール」1,310、「美術館」628、「練習場・創作工房」175）

●調査研究に関する問い合わせ

芸術環境部 児島

Tel. 03-5573-4183

今回は「地域の公立文化施設実態調査」のうち、舞台芸術を主目的としている「専用ホール」の主な結果を紹介する。なお、今回調査の対象となった「専用ホール」1,483施設（地方公共団体からの回答により把握した施設）のうち、施設から有効回答があったのは1,455施設である。

●回答施設の概況

設置主体別にみると、都道府県92施設（6.3%）、政令市131施設（9.0%）、市区町村1,232施設（84.7%）である。また、管理運営形態別では、指定管理が911施設（62.6%）、直営施設が544施設（37.4%）となっている。2014年度調査と比較すると専用ホール施設数は1,452施設と横ばいで、指定管理施設が61.2%から62.6%へとやや増加している〔表1〕。

●施設の運営状況（スタッフ数・専門職員の有無・収入）

2019年9月時点でのスタッフの平均合計人数は10.2人で、内訳は、事業系スタッフ3.5人、施設管理系スタッフ3.3人、舞台技術系スタッフ3.1人、総務系スタッフ2.6人となっている。設置主体別では、施設規模の大きい都道府県（21.0人）、政令市（16.3人）が多く、市区町村（8.8人）との差が顕著だった〔表2〕。

また、芸術文化領域の専門職員（芸術監督やプロデューサー等）の雇用状況をみると、「芸術監督」（3.3%）、「プロデューサー」（5.0%）、「それ以外」（6.5%）で、そのいずれかを雇用していると回答した施設の割合は12.8%である。設置主体別では、都道府県施設で雇用している割合が高い〔表3〕。

2018年度決算金額による施設収入金額は、直営施設で平均45,089千円、指定管理施設で平均176,073千円だった〔表4〕。2014年度調査（2013年度決算）と比較すると、直営施設で52,847千円から14.7%の減少、指定管理施設で177,180千円から0.6%の減少だった。指定管理施設で収入がほぼ横ばいなのに対し、直営施設での減少が目立つ結果となった。

●自主事業の実施

専用ホール施設において2018年度に自主事業を実施していないと回答した施設は極めて少なく、直営施設では別団体への委託も含めて実施していないが27.0%、指定管理施設では設置主体からの受託、別団体への委託も含めて実施していないが8.2%にとどまった（詳細はホームページに掲載している報告書参照）。また、自主事業実施施設（設置主体が事業を実施している直営施設および指定管理者が事業を実施している指定管理施設1,185施設）における事業実施本数の平均は18.1件である。設置主体別の分布で見ると、21件以上が都道府県（48.3%）、政令市（40.8%）が多い〔図1〕。

2019年度調査では、これまでの「クラシック音楽・オペラ」「ダンス・舞踊」といったジャンル別実施率に加え、鑑賞系事業の詳細ジャンルの実施率も調査した〔図2〕。全体では「落語」（38.3%）、「吹奏楽」（31.7%）、「ジャズ」（26.4%）、「ミュージカル」（25.7%）の実施割合が高い。また、近年増えている「映画、アニメ、ゲーム等の楽曲のオーケストラ演奏」は14.3%、東日本大震災以降に始まった「防災・避難訓練コンサート・文化イベント」は6.4%だった。

アウトリーチ事業については、2018年度の実施率は、全体で43.8%（都道府県74.7%、政令市61.2%、市区町村39.0%）となっている。年間の平均実施回数は、全体で13.3回（都道府県20.9回、政令市11.0回、市区町村12.4回）である。2013年度の結果と比較すると、全体の実施率で38.3%から43.8%へと大きく増加し、回数も12.6回から13.3回へと着実に増えている〔表5〕。

このほか、鑑賞系事業以外の普及系・創造系・育成系事業や、子ども・高齢者・障がい者などの特定対象者向け事業の実施率、他の公立文化施設・団体との連携実態なども調査しており、ぜひ当財団ホームページに掲載している報告書を参照していただきたい。

表1 設置主体別、管理運営形態別/施設内容内訳 (%)

		設置主体別			管理運営形態別	
		都道府県	政令市	市区町村	指定管理	直営
2019年度	施設数	92	131	1,232	911	544
	(%)	6.3	9.0	84.7	62.6	37.4
2014年度	施設数	94	126	1,232	887	564
	(%)	6.5	8.7	84.8	61.2	38.9

表2 スタッフ数の平均(設置主体別)

	有効 回答数	合計人数平均 (括弧内は2014年 度調査)	職種			
			事業系	施設 管理系	舞台 技術系	総務系
全体	1,422	10.2人 (9.7人)	3.5人	3.3人	3.1人	2.6人
都道府県	91	21.0人 (20.7人)	7.6人	4.9人	6.5人	4.4人
政令市	130	16.3人 (14.4人)	5.3人	5.7人	4.2人	3.6人
市区町村	1,201	8.8人 (8.3人)	2.9人	2.9人	2.7人	2.4人

表3 芸術文化領域の専門職員(設置主体別) ※複数回答可

	有効 回答数	芸術監督	プロデュー サー	左記以外	いない	不明
全体	1,455	3.3%	5.0%	6.5%	82.2%	5.0%
都道府県	92	15.2%	17.4%	10.9%	65.2%	1.1%
政令市	131	3.8%	9.2%	9.2%	79.4%	2.3%
市区町村	1,232	2.4%	3.7%	5.9%	83.8%	5.6%

表4 2018年度決算金額

●直営

収入		平均金額	有効回答数
一般財源		40,055千円	468
	補助金・助成金	4,000千円	173
特定財源	施設使用料・入場料収入等(*)	7,611千円	359
	その他	7,353千円	218
収入金額計		45,089千円	521

*「施設使用料・入場料収入等」は、これらを一般歳入とせず、特定財源で施設運営費に充当している場合に記入。

●指定管理

収入		平均金額	有効回答数
設置者からの収入	指定管理料	109,222千円	845
	事業補助金(*1)	16,432千円	310
	事業委託費(*2)	8,181千円	303
	その他(*3)	6,565千円	247
自主財源(*4)	利用料金収入(*5)	40,231千円	691
	事業収入	27,997千円	694
	設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金	7,762千円	393
	その他	6,516千円	597
収入金額計		176,073千円	859

*1 指定管理料以外に設置者からの事業補助金がある場合に記入。指定管理者である文化財団本部に対する事業補助金で当該ホールの事業を実施する場合を含む。

*2 設置者から事業の委託を受け、その費用を指定管理料とは別に事業委託費として受け取っている場合記入。

*3 上記以外の費目で、指定管理料とは別に設置者から受け取っている収入がある場合記入。

*4 複合施設で他の施設からの収入が充当されている金額を含む。

*5 利用料金制を取っている場合記入。

図1 自主事業数の分布 (%) (設置主体別)

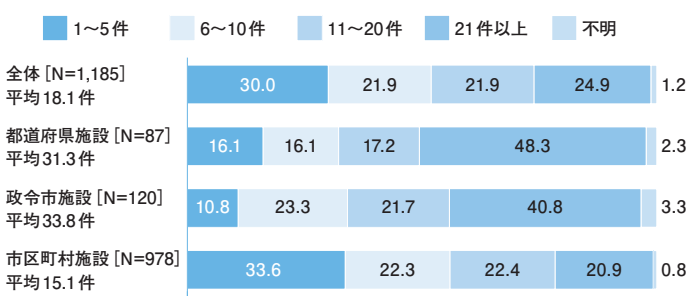


図2 鑑賞系自主事業・受託事業の詳細ジャンル、個別企画内容 (%)

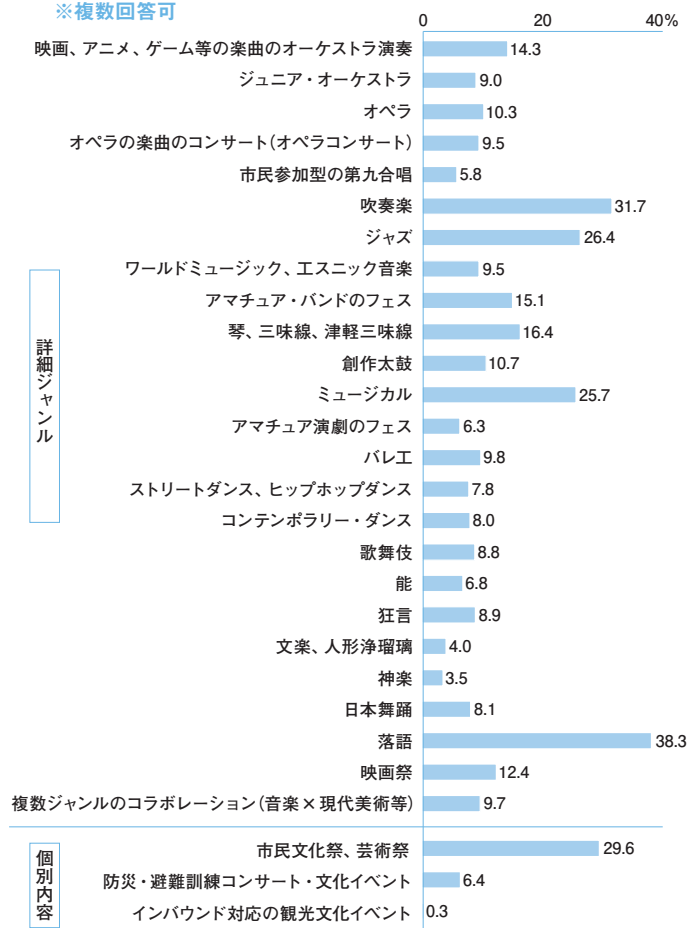


表5 アウトリーチの実施状況(設置主体別)

	実施率と未実施施設の今後の動向 (%)					実施回数(回)	
	有効 回答数	実施した	実施したいがまだできていない	実施の予定はない	不明	有効 回答数	平均
全体	1,198	43.8	9.6	44.9	1.7	478	13.3
都道府県施設	87	74.7	2.3	20.7	2.3	60	20.9
政令市施設	121	61.2	5.0	33.1	0.8	68	11.0
市区町村施設	990	39.0	10.8	48.5	1.7	350	12.4
参考: 2013年度	1,163	38.3	15.3	31.0	15.5	430	12.6

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

静岡県

静岡県舞台芸術センター (SPAC)

「くものうえ↑せかい演劇祭2020」

●くものうえ↑せかい演劇祭2020

(4月25日～5月6日)

◎コア企画: 25コンテンツ

(内オフライン2)

『おちょこの傘持つメリー・ボビンス』バーチャル稽古、Zoom in Training!、映像作品(ワジディ・ムアウッドによる日記の朗読、オリヴィエ・ビエのグリム童話『愛が勝つおはなし 〜マレーヌ姫〜』全編上映、『アンティゴネ』全編上映など)、ライブ配信の各種トーク企画など

◎プロッサム企画: 24コンテンツ

(内オフライン6)

くものうえ↑バックステージツアー「SPAC創作・技術部の今」、俳優によるSPAC作品の音楽的セリフの仕組み解説(対位法のみみつ)、SPACラヂオの時間～朗読お届け便～、でんわde名作劇場、寄せ書きレターなど

新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れず、2月下旬から公立ホール・劇場の事業は次々中止に追い込まれた。そんな中で、「ふじのくにせかい演劇祭」(4月25日～5月6日)を中止した静岡県舞台芸術センター(SPAC)では、プログラムをオンラインを中心にした「くものうえ↑せかい演劇祭2020」に変更して実施。その間の動きと、6月8日に行った宮城聡芸術総監督のインタビューを紹介する。

静岡芸術劇場に加え、静岡県舞台芸術公園内の劇場・稽古場・宿泊施設という専用施設を有し、芸術総監督が専属俳優や舞台技術スタッフなどを束ねるSPACは、日本の公立劇場の中でも特異な存在だ。短時間でジャッジし、新たなプログラムを立ち上げることができたのは、こうした体制があったからだ。

この間のSPACの対応をまとめたのが下記の表だ。2月27日に『メナム河の日本人』の中止を発表した時にはこんな事態は予想していなかったという宮城総監督は、3月31日の緊急

会議でせかい演劇祭の中止とくものうえの開催を決定。この間の思いを次のように語った。

「同じ新型コロナウイルス感染症なのに人によって感受性が異なり、死ぬ人もいれば無症状の人もいる。演劇はあらゆる分断を縫合するためにあるのに、いくら考えても劇場に持ち込まれた『ウイルスに対する感受性の違い』という分断を縫合する方法が浮かばなかった。“過去の知恵の蓄積”である演劇にも描かれたことのない難しい宿題だと思った。

一方、世界は新型コロナウイルスという敵に対して自分たちを守るという単純化した図式、ドメスティックなメンタリティに傾倒していった。その中で稽古場がクラスターになるリスクを考えると、人が集まる稽古はできないと、『おちょこ〜』の中止を決断した。それでも演劇が必要な人間が存在することを伝える必要が絶対にあると思い、くものうえを企画した。こういう時には受け身にならずジタバタするほうが思いは伝わるから、何か考え出そうと俳優たちに投げかけたら、60ページぐらいの膨大な企画が集まった。それを分類し、高齢者やIT弱者向け、演劇に限らないオンライン・コンテンツ視聴者向け、SPACのコアなファン向け、子ども向けの企画に絞り込んでいった。これからしばらくは生の舞台というメインのバトルフィールドとは別のところに品揃えを広げていく必要がある。そのための経験になったし、ここだけは絶対譲れないところを炙り出す作業にもなった。

俳優が電話で名作を朗読する『でんわde名作劇場』はとても手応えがあった。考えてみたら、ここには生の俳優と観客がいて、その一期一会の関係の上にしか成立しない現象がある。すぐく小さいが、そこには演劇の本質があった。こういう取り組みをいくつか続けていこうと思っている。来年のせかい演劇祭については、生身の肉体が生身の肉体と一緒に表現するという国際交流は最後の最後まで残さなければいけないと訴えていきたい。この窓を開け続けることは絶対に必要であり、少人数になるかもしれないが、小さな窓から世界を見る、知ることをやり続けたいと思っている」(坪池栄子)

●新型コロナウイルス感染症対策の動向とSPACの対応

- 12月31日 中国がWHOに武漢で原因不明の肺炎クラスターの確認を報告
- 1月29日 武漢市からチャーター便(第1便)により邦人帰国
- 2月3日 横浜港に「ダイヤモンド・プリンセス号」到着
- 2月14日 「ふじのくにせかい演劇祭(以下、せかい演劇祭)」(4月25日～5月6日)詳細発表
- 2月19日 ダイヤモンド・プリンセス号から約500人の陰性の乗客の下船開始
- 2月16日 第1回新型コロナウイルス感染症対策専門家会議開催
- 2月27日 静岡市が主催するイベント等の開催についての基本方針策定
- 2月27日 上演中のSPAC『メナム河の日本人』(今井朋彦演出)の2月29日以降の公演中止発表
- 2月28日 3月2日から全国小中高臨時休校要請
- 3月1日 せかい演劇祭チケット会員先行予約開始
- 3月11日 WHOがパンデミック宣言
- 3月17日 せかい演劇祭のSPAC新作『おちょこの傘持つメリー・ボビンス』稽古開始
- 3月18日 シェンゲン協定加盟国をはじめとする38カ国を対象とした14日間の待機要請などを決定
- 3月19日 SPAC幹部らによる緊急会議を開催。せかい演劇祭の海外招聘演目チケット販売一時停止
- 3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期合意
- 3月29日 せかい演劇祭の開催に係るミーティング(宮城・俳優・スタッフ全員参加)開催
- 3月30日 静岡市立静岡病院の透析室に勤務する看護師1名の感染が判明
- 3月30日 せかい演劇祭のSPAC作品のチケット販売一時停止
- 3月31日 SPAC幹部による緊急会議でせかい演劇祭中止と「くものうえ↑せかい演劇祭2020(以下、くものうえ)」開催決定
- 4月1日 「おちょこ〜」バーチャル稽古開始
- 4月3日 せかい演劇祭の中止と「ストレンジシード静岡」の延期発表
- 4月7日 緊急事態宣言発表
- 4月10日 くものうえ開催発表
- 4月17日 静岡芸術劇場休館/舞台芸術公園一部閉鎖発表(4月18日～5月6日)
- 4月21日 くものうえコア企画と配信時間発表
- 4月25日 くものうえ開幕(4月25日～5月6日)
- 5月25日 緊急事態宣言解除